

やまねっと通信 第17号

2018・1

発行: 社会福祉法人やまねっと

〒242-0028 大和市桜森3-4-2 大和泉の森作業所内 TEL 046-282-9018

== 新年によせて ==

理事長 薄葉 雄一

明けましておめでとうございます。昨年は、社会福祉法人やまねっとに対し、一方ならぬご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございました。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、例年年末に発表される一文字ですが、昨年は「北」となりました。やまねっとを振り返ると、私自身は「備」であった気がします。防災、防犯に対して備えの充実を図った1年でありました。これで安心ということにはなりません、今年も災害計画等に対しては、常に充実・見直しを図ってまいります。

また、別の備えとしてこれからの日本の状況の変化にも備えていかなければなりません。昨年は、年間出生数が2年連続100万人の大台を割り込み、2020年には女性の半数が50歳以上、2024年には、人口の3人に1人が65歳以上の超・高齢者大国になるとされています。少子高齢化という構造的な課題に直面する現在、持続可能な社会保障制度の維持や構築が不可欠となっています。障がい福祉制度もそれらに呼応して変化していきます。

今年の国の動きとしては、障害者総合支援法の一部改正（平成30年4月1日施行）があります。概要として、①障がい者の望む地域生活の支援②障がい児支援のニーズの多様化へのきめ細かな対応③サービスの質の確保・向上に向けた環境整備があげられています。①については、新サービスとして、一人暮らしを希望する障がい者に対する支援（自立生活援助）、一般就労した障がい者に対する生活上の支援（就労定着支援）が開始されます。また介護保険サービスの円滑な利用を促進するため、利用者負担を軽減する仕組み、障害福祉サービス事業者が介護保険事業所になりやすくする等の見直しが図られるとのことです。また、春には報酬改定が予定されております。食事提供加算は継続されそうですが、報酬単価はより細分化し、地域区分の変更、送迎加算の見直しの話も出ており、詳細については3月の決定を待つ状況です。やまねっとでは、利用される皆さんが、地域で働き、生活し、学び遊んでいくという当たり前の生活が送れるようがんばってまいります。今年一年皆様にとりまして素晴らしい一年となりますようご祈念申し上げます。

☆ 多障害者週間販売会のご報告 ☆ 多

12月13・14日（水・木）とイオンモール大和にて障害者週間に合わせた販売会が行われました。特別支援学校を含む21の団体が集まり、パンやクッキー、アクセサリから日用品まで多数の自主製品販売やパネル展示を行い多くのお客様に来店いただきました。また、今年は神奈川県「ともに生きるかながわ」の展示も行われ熱心にご覧になっている方もいらっしゃいました。平日での開催でしたが、事業所での活動中に寄ってくださったりとにぎやかな2日間となりました。



《泉の森作業所 in 山梨》

11月1日(水)～2日(木)、たくさんの人たちの応援を頂きながら総勢30名で山梨県へ泊旅行に行ってきました。1日目は、一宮のレストランで特別に作ってもらったミックスフライランチを食べてから紅葉祭り初日で賑わう河口湖へ。湖畔の猿回し劇場でお猿さんたちの多彩な芸に驚き笑った後は、本日の宿「石和温泉 糸柳」に到着。小グループで散策に出かけたりの部屋でのんびりしたりしてから、それぞれに温泉を楽しみました。夕食の宴会では恒例のカラオケ大会♪…



この時間の一体感を共に味わいたくて、毎年参加を楽しみにして来てくれているボランティアさんもおられます。「365歩のマーチ」を最後に皆で唄って、「おやすみなさ～い」。熟睡した人にもほほ眠れなかった人にも、朝は平等にやってきます。2日目は、盲導犬の訓練施設「富士ハーネス」へ。PR犬イザベルちゃんのデモンストレーションに感激した後は、沼津でゆっくりめの昼食をとり思い思いのお土産を購入。動物たちと触れ合った思い出を乗せて、帰路バスは泉の森を目指すのでした。



《のぎく作業所 in 大人の秋の中華街ツアー》

今年電車とシーバスで横浜を一周する日帰り旅行を計画しました。6名の参加がありました。11月10日(金)お天気にも恵まれ爽やかな秋空の中、まずは相鉄線で横浜駅へ。地下への長いエスカレーターに乗り、みなとみらい線横浜中華街駅で下車。中華街も賑わっている中、大通りを進み昼食の「同發別館」へ。メニューから各自好きな食事を選びました。お腹も満たされ、次はお土産購入へ、お財布と相談しながら横浜博覧館で中華街らしいお土産を購入する人、食べ歩き用のおやつを購入する人様々でした。山下公園へ歩いて向かい、シーバス乗り場へ。青空の下、海を眺め出航を待ちました。当日は風があり、乗船時に少々揺れましたが、無事乗船。船内で窓から景色を眺める人、デッキで風を感じる人、船の揺れを怖がっていた人も皆30分の船旅を楽しみました。横浜駅の下船場から駅構内を縦断し最後は地下鉄乗り場へ。横浜そごうの館内を通り抜け地下道を歩き、何とか迷わずに電車乗り場にたどり着きました。地下鉄ブルーラインは、一日の疲れを感じながらうたた寝したり、お土産話をしたり、のどかな雰囲気でした。予定より30分ぐらい遅れはしましたが、無事高座渋谷駅に到着しました。



揺れを怖がっていた人も皆30分の船旅を楽しみました。横浜駅の下船場から駅構内を縦断し最後は地下鉄乗り場へ。横浜そごうの館内を通り抜け地下道を歩き、何とか迷わずに電車乗り場にたどり着きました。地下鉄ブルーラインは、一日の疲れを感じながらうたた寝したり、お土産話をしたり、のどかな雰囲気でした。予定より30分ぐらい遅れはしましたが、無事高座渋谷駅に到着しました。



季節のコラム 1年で一番大きく寒い日～「大寒」～



年末年始の慌ただしさから徐々に日常に戻りつつありますが寒さはこれからが本番、今回は暦の上でも最も寒い日とされる日「大寒」についてです。

「大寒」とは二十四節気の一つ、冬の季節の最後の節気。小寒から数えて15日目頃から立春までの間の事を言い、天気予報などでもお馴染みの言葉かと思えます。今年1月20日がその日にあたります。

その最も寒い日といわれる大寒。この日に汲んだ水は腐らないといわれて保管されていたくらい水質もよく、空気中の雑菌も少ない事から様々な食べ物を仕込む時期でもあり、味噌や醤油、寒天、日本酒などの仕込みをするそうです。

また、この日に産まれた卵は「寒たまご」と呼ばれていて、寒さが厳しいこの時期に産卵される卵は滋養成分がたっぷり、昔から食べる一年間無病息災で過ごせるとされて珍重されてきました。大寒の終わり頃は七十二候で、「鶏始乳(にわとりはじめてとやにつく)」と言われ春の気配を感じた鶏が卵を抱き始める頃だそうで、生気に満ち溢れた縁起物としての側面もあり、風水の世界では金運が上昇するとも言われています。美味しい卵を食べ、健康で豊かな一年になると良いですね。